居場所ない子たち

一字一筆 静岡の今 96

入団式も野外で＝伊豆の国市、全日写連・藤田寛司さん撮影

新型コロナウイルスのパンデミック(世界的流行)状態を考えれば、地球儀では「点」みたいな日本列島で「緊急事態宣言」の対象に地域差があることは不思議だと思っていた。4月16日、静岡県を含む全都道府県にやはり対象は拡大された。

感染拡大の影響は県内の各自治体と県民生活に広がってきたが、豊かな自然と温泉の町・伊豆市を襲ったコロナ禍は深く大きい。同市内の伊豆ベロドロームでは東京五輪・パラリンピックの自転車競技が行われる予定だった。この世界的イベントの開催を機に、同市は「自転車の町」として世界にデビューするはずだった。サイクリング道路が整備され、官民一体となって自転車による「まち興し」が進められた。ところが東京五輪・パラリンピックはコロナ騒動で1年延期となり、自転車によるまち興しは水を差された。

同市で4月19日、市長選が行われた。本来なら「東京五輪と自転車のまち興し」が最大の争点になるはずだったが、「コロナ感染防止」にとって代わられた。「密集」「密接」を避けて、街頭演説や有権者との握手風景も消えた。マスコミの出口調査でも有権者の関心は「コロナ対策」が1位だった。市選挙管理委員会には交流のある台湾・台北市のロータリークラブからマスク2万枚が届き、投票所で有権者に配られるなど「コロナ選挙」だった。4選された市長はさっそく、御殿場市や西伊豆町と同様に、県内市町に先駆けて営業自粛要請した観光業者らに対する補償などのコロナ対策に追われる。

隣接の伊豆の国市で4月5日、ガールスカウト静岡県連盟第104団(土屋栄子委員長)の入団式があった。例年の屋内式典を、「3密」の心配がない野外セレモニーに代えたという。

緊急事態宣言で県内の小、中、高校の休校期間が延長された。公園や遊具を使用禁止にした自治体もある。今、子供たちの「居場所」がなくなっている。

(前静岡県監査委員・富永久雄)